

25:19 これはアブラハムの子イサクの歴史である。アブラハムはイサクを生んだ。

25:20 イサクが、パダン・アラムの人ペトエルの娘で、アラム人ラバパンの妹であるリベカを妻に迎えたときは、四十歳であった。

25:21 イサクは、自分の妻のために【主】に祈った。彼女が不妊の女だったからである。【主】は彼の祈りを聞き入れ、妻リベカは身ごもった。

25:22 子どもたちが彼女の腹の中でぶつかり合うようになったので、彼女は「こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか、私は」と言った。そして、【主】のみこころを求めに出て行った。

25:23 すると【主】は彼女に言われた。「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は、もう一つの国民より強く、兄が弟に仕える。」

25:24 月日が満ちて出産の時になった。すると見よ、双子が胎内にいた。

25:25 最初に出て来た子は、赤くて、全身毛衣のようであった。それで、彼らはその子をエサウと名づけた。

25:26 その後で弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それで、その子はヤコブと名づけられた。イサクは、彼らを生んだとき、六十歳であった。

25:27 この子どもたちは成長した。エサウは巧みな狩人、野の人であったが、ヤコブは穏やかな人で、天幕に住んでいた。

25:28 イサクはエサウを愛していた。獵の獲物を好んでいたからである。しかし、リベカはヤコブを愛していた。



25:29 さて、ヤコブが煮物を煮ていると、エサウが野から帰って来た。彼は疲れきっていた。

25:30 エサウはヤコブに言った。「どうか、その赤いのを、そこの赤い物を食べさせてくれ。疲れきっているのだ。」それで、彼の名はエドムと呼ばれた。

25:31 するとヤコブは、「今すぐ私に、あなたの長子の権利を売ってください」と言った。

25:32 エサウは、「見てくれ。私は死にそうだ。長子の権利など、私にとって何になろう」と言った。

25:33 ヤコブが「今すぐ、私に誓ってください」と言ったので、エサウはヤコブに誓った。こうして彼は、自分の長子の権利をヤコブに売った。

25:34 ヤコブがエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えたので、エサウは食べたり飲んだりして、立ち去った。こうしてエサウは長子の権利を侮った。

神様は御心のままにご介入なさってご計画を進める方ですが、ときには人の心のあるがままに任せて、その心の内を明らかにされます。つまり聖なる予定の通りに進めることもあれば、があるがままに任せて将来を予知なさることもあるのです。予定か予知か…それは神様が権威を持ってお決めになることです。

エサウとヤコブの関係は神様が予知なさり、その将来をリベカに告げたと言えるでしょう。主はエサウが神の祝福や権威、そこから来る長子の権を軽んじるような信仰となることを予知しておられたと思われます。

ただし、この神の御心に関して、この家族が正しく行動意できたわけではありません。ヤコブはその権利をだまし取る方へ動き、リベカは偏愛す

るヤコブをそそのかし、イサクはエサウを愛するあまり信仰教育で失敗していたのです。

これらのことから少なくとも3つの面で教えられます。第一に個人的な教訓です。イサクの信仰教育と、リベカの偏愛、エサウの肉的信仰、ヤコブの狡猾さなどの教訓。またイサクの妻想いの面やリベカの祈りなど模範もあります。

第二に神に求める信仰の大切さです。彼らはみな欠点のある人間で、誰がより正しいという比較はできません。しかしその中で、神様は確実にヤコブを愛し彼に祝福を与えたのです。このように主を頼り求めることは、不完全な人間にあっての祝福の道なのです。

第三には信仰による跡継ぎということです。血統の流れから言えば、当然エサウに行くべき子孫の祝福が、信仰的な理由からヤコブに行なったということは、子孫とは信仰によるものであるということを明らかに表しています。

信仰によってアブラハムの子孫である私たちは、ますますその確信を強めまた感謝し、信仰をもって神様に求めましょう。また神の権威の前にその御心を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

